

## 2 個別のテーマの検討状況

### 1) 手術における異物残存

平成17年7月1日から平成17年9月30日までに、新たに報告のあった手術における異物残存は5件であった。平成16年10月1日から平成17年9月30日の1年間では23件の報告があった(表1)。

異物残存が発見されたのは、第2回報告書の分類に従うと、「手術中～帰室まで」0件、「帰室～退院まで」5件、「退院後」0件であった(表2)。また、異物残存の原因はいずれも手術中に発生しており、そのうち3件は手術中にカウントを行っていたが残存が発見されなかった。1件は定められた手順を行っていなかったもの、もう1件は本来固定されるはずのものが脱落し予定外の部位に迷入したものである。これら5件はすべて、術後に行ったX線撮影によって異物の存在を確認している。

分析班では引き続き、

①物品をできるだけ残存させない方法

②残存してしまった物品を手術終了前に発見する方法

に関する検討を行っている。

また、当事業に参加している医療機関へのアンケート調査、関係学会、関連業界団体に対するヒアリング等を行い、より安全で確実かつ医療機関において実施可能な現実的な対策の検討を引き続き行うこととしている。

**表 1 異物残存に関する事故事例報告の内訳**

残存した異物	報告件数		備考
	平成 17 年 7 月～9 月	平成 16 年 10 月～ 平成 17 年 9 月	
ガーゼ	2	8	
縫合針	1	6	
ブルドック鉗子	0	2	
金属プラグ	0	1	
シャントチューブ	0	1	
ネジ	0	1	
開創器部品	0	1	
スプーン	0	1	
針	1	1	手術部位確認に使用
歯科用矯正装置 (ブラケット)	1	1	

**表 2 異物残存事例の概要**

平成 17 年 7 月 1 日から 9 月 30 日の報告事例

No	遺残物	遺残に気づいた理由	異物残存発見の経緯
帰室後			
1	ガーゼ（紐付き）	X線撮影	術中カウントは合っていた。 帰室後、術直後に撮影したX線写真を確認時に発見。
2	手術部位確認用の針	X線撮影、CT撮影	術後一週間以上経過した頃、術直後に撮影したX線写真やCTを用いて術後経過を検討した際に発見。
3	ガーゼ	X線撮影	術中カウントは合っていた。 術後のX線撮影で発見。
4	歯科用矯正装置 (ブラケット)	X線撮影	術後のX線撮影で固定が緩み器具の一部が予定外の部位に迷入しているのを発見。
5	縫合針	X線撮影	術中カウントは合っていた。 術直後に手術室内でX線撮影を実施し、画像をモニター画面上で確認したが、異物には気づかなかった。 帰室後、X線写真を確認時に発見。